2013年12月　なこや東山の森づくりの会　鬼頭

門 松 の お 話

はじめに

門松は、神様を迎え、祭る役割を持ち、五穀豊穣の神である年神（としがみ）様が降りてくる際の目印なのだそうです。　1460年琉球国にもあった風習だったとも言われ、松は神を「待つ」、神が宿る「依代（よりしろ）」という意味になり、また松は、常緑なので長寿の意味に解され、千年の齢を契り、若返りの効ありとされています。竹は成長が速いので生命力の象徴であり、松と組み合わせると「神の宿る場所が永遠に続くことを願う」という意味になり、正月の始めに門戸に挿して一家の長寿を祈念したようです。日本に門松の風習が普及したのは、平安時代から鎌倉時代にかけてといわれています。

江戸時代には、門松制限が行われ、主要林産物のたる木材は軍事上、日常生活上の必需品であり、領内における林産物の蓄積、そして階級的分限を重視して、これによって社会秩序を保とうとしました。また藩、幕府の財政困窮からの倹約主義による林産物の伐採や消費の制限が行われ、その中に門松の制限がありました。明治時代になって制限は緩み始め、江戸では、町内の門松立ても鳶の仕事でありました。つまり作り手が大量に同じ形を作ったため、同じような形が町のあちらこちらに現れ、やがて門松に対する既成概念を持たせるまでになったと考えられます。

門松エピソード

話は１５７２年（元亀３）１２／２２の三方ケ原の戦いに遡ります。家康は信長軍と組んで武田信玄と戦ったが、惨敗して這這の体で浜松城へ逃げ帰った家康のもとへ、武田陣営から次の一句が送られました。

「松枯れて　竹類（たけたぐい）なき　明日かな」

松平（徳川）が敗れて、武田が類（たぐひ）のない勢いを得た正月の朝のめでたさや

これを見て、家臣の本多平八郎忠勝？酒井忠次？が、この句に即妙の濁点三ケ所を打ち

「松枯れで　武田首（たけだくび）なき　明日かな」

松平（徳川）が敗れないで武田の首がない明日かな　として返事を送り、城門に飾った門松の（武田）を斜めに切り落としたといわれています。

返した句は、単に濁点を加え、あるいは濁点の位置を変えただけのこと。この機知に喜んだ対応に、こんな知将がいるのでは迂闊に城攻めはできないと考えたのか、信玄はやがて兵を引き、以後、徳川家の武運が開けて天下をとるに至ったといわれています。

戦乱がおさまり、江戸城の新年には代々、門松の松は松平家、竹は武田家を意味して、竹を松が取り包み、竹は先（首）を切り落と、した形（斜め切り）の門松が飾られるようになり、この風習が江戸の町民に広まったという説があります。

事実かどうかはともかく、歴史を彩るひとつのエピソードとしては、おもしろいですね。

武田家の地元である山梨県では、竹だけ、それとも寸切りの門松を飾る家が多いとか。

この話は『多聞院日記』１５４１年（天文１０）の記事に出ているそうで、“こういう話が東照公の軍記に採り入れられて、さも誠らしく語られたものではなかろうか’’といわれています。鈴木菓三著『日本年中行事辞典』（角川書店）の門松の項には、“松枯れて竹たぐひなき旦「あした」かな”という句はすでに『多聞院日記』に室町時代後期の連歌師の柴屋軒宗長がつくった句として出でいると解説しているそうです。

とすると、

竹の先が切り落とされた門松の由来はなんでしょうねー。

門松を飾る時期

門松を飾る時期は、大体 26 日から 30 日の間に立てられますが、29 日と 31 日は避けます。それは、29 日は「苦松・苦待つ」、「苦立て」といわれ、また 31 日は「一夜飾り」として避けるのがよいと考えられています。

門松づくり（できるだけ里山の恵みで作りましょう。）

材料（一対）

- マタケ　・・・・・・・6 本（長さ 130cm、太さ 8～10cm）
- クロマツ　・・・・・・・2 本（枝付き、長さ 60cm くらい）
- アカマツ　・・・・・・・2 本（枝付き、長さ 60cm くらい）
- ナンテン　・・・・・・・4 本（実の付きのよい長さ 60cm くらい）
- ウメ　・・・・・・・2 本（枝が多い長さ 60c jm くらい）
- マンリヨウ　・・・・・・・2～4 本（実の付きのよい長さ 40cm くらい）
  なければ、センリョウ、クロガネモチでもよく、混在もよし
- ユズリハ　・・・・・・・2 本（長さ 40cm くらい）（なくてもよい）
- クマザサ　・・・・・・・20 本くらい
- ウラジロ　・・・・・・・10 本くらい（なくてもよい）
- ハボタン　・・・・・・・紅白各 2 鉢（なければコガネモチでカバー）
- 黒のシュロ縄・・・・・・・2 締めほど
- 裂いた竹もしくは稲ワラ・・（土台の周囲に巻く）
- 入れ物と土　・・・・・・・バケツほどの大きさのものと、7 分目ほどの土
- 竹筒　・・・・・・・6～8 個（マツ、ウメなどの花びん代用）

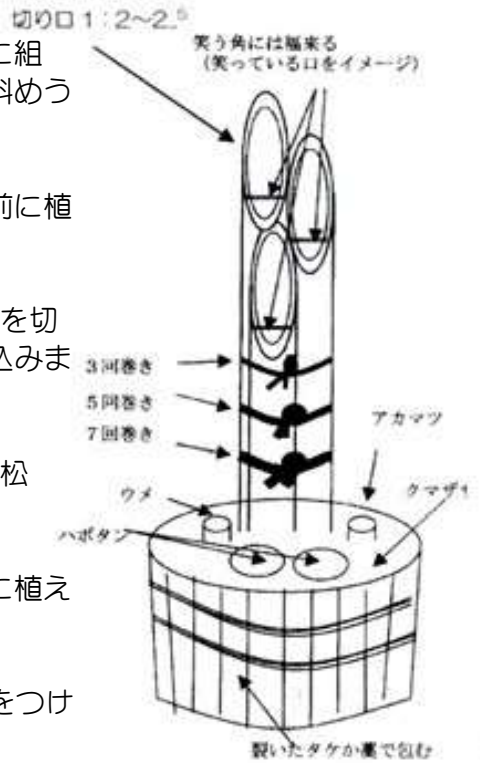
作り方（向かって右側に置く門松、左側はその対称に）

1．3 本の竹の長さは、7：、5：3 です。「7」は天神七代（てんしんしちだい）、「5」は地神五代（らじんごだい）、「3」は三貴子（みはしらのうずのみこ）を意味しており、神武天皇以前に日本を治めていた神の時代を表しているそうです。

2．仮組み、土入れ
切りあがった竹を 3 本ずつ仮組みます。竹の組み図のように組み、入れ物の奥に立てて土を入れ、同時に竹筒を竹の両端斜めうしろに埋めます。

3．ハボタンを植える
ここからは寄せ植えです。まずは紅白のハボタンを中央手前に植えます。

4．マツ、ウメを植える
2 本のアカマツの内、1 本は右の竹筒に挿し、もう 1 本は枝を切り離し、長いものを竹の前へ、残りをその前、左右に植え込みます。ウメは、紅梅を左の竹筒に挿します。
（白梅は左側の門松の右側に）
本式の門松は、向かって右側に雌松（アカマツ）、左側に雄松（クロマツ）の左右一対で飾るとされているようです。

5．ナンテンなどの植え込み
ナンテン、マンリヨウ、センリョウ、ユズリハなどを回りに植えます。

6．クマザサ、ウラジロの植え込み
マツが少ない分、クマザサ、ウラジロを植えてボリュームをつけます。入れ物のふちに沿ってどんどんさしていきます。
このへんは、特に決まりがなさそうなので、アイディアの見せ所！